

令和4年度環境保全計画書

1. サステナビリティに関する方針とエコビジョン

当社は、J. フロントリテイリンググループのサステナビリティ方針のもと、本業を活かし、地球環境の保全と社会課題の解決を図るため、「7つのマテリアリティ（重点課題）」への取り組みを中心に、企業として、店舗として様々な施策を進めています。

1) トップコミットメント

私たちを取り巻く環境・社会変化のスピードは、近年、加速度を増しています。気候変動による影響は、海洋や生態系への目に見えない変化から、異常気象を原因とすると思われる様々な災害の多発へと、身近な脅威を実感するレベルへ急速に拡大しています。一方で、グローバル化とICT化の進展に伴い、多様な価値観が生まれる中、ダイバーシティへの理解と共存が求められています。

私たちは、このような課題に積極的に取り組み、いつまでも笑顔で幸せにくらせる環境・社会を未来の子どもたちへ届けることが使命だと考えます。そのために、当社のあらゆる企業活動において「サステナビリティ視点」を最上位に位置づけています。グループサステナビリティ方針に基づく「7つのマテリアリティ」（「脱炭素社会の実現」「お客様の健康・安全・安心なくらしの実現」「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」「ワーク・ライフ・インテグレーションの実現」「地域社会との共生」「サプライチェーン全体のマネジメント」「サーキュラー・エコノミーの推進」）と真摯に向き合い、未来へ向かう持続可能な社会の構築に向け、お客様、お取引先様、地域の皆様、従業員とともに取り組んでいきます。

2) 考え方(JFRグループのエコビジョン)

地球温暖化が進み、異常気象が多発するなど私たちの暮らしは環境におけるリスクにさらされています。私たちは、環境問題を最重要な課題であるにとらえ、このかけがえない地球環境を保ち続けるために全社一丸で努力していくことが社会の一員である私たちの重要な使命であると考えています。私たちはその使命を果たすために事業活動を通じた環境課題の解決に向けた取り組みを行ってまいります。それがサステナビリティ方針で掲げたさまざまなステークホルダーとの接点を永続させていくことにつながると考えています。

私たちは一人ひとりが環境問題に対しての見識を深め、法的要求事項および社内基準を遵守し、責任を持ってこの課題に取り組んでいきます。

3) 行動方針(JFRグループのエコビジョン)

① エネルギーおよび排出ガス削減への取り組み

店舗や事業所における事業活動およびすべてのサプライチェーン上で使用するエネルギーおよび排出ガスの継続的削減に取り組みます。

② 循環型社会への対応

お客様、お取引先様とともにご家庭や店頭・事業所で排出される廃棄物のリサイクルに取り組み、資源再利用や再生資源活用を通して事業活動における資源効率を高めることに取り組みます。

③ 脱炭素社会に貢献する商品・サービスの提供

店舗・事業所を通して、脱炭素社会に貢献する、環境にやさしくまた高い付加価値を持つ商品・サービスを開発し提供します。

④ 推進体制の構築

「サステナビリティ委員会」においてJ.フロントリテイリンググループの環境計画を策定します。この環境計画に基づいて株式会社大丸松坂屋百貨店をはじめとするグループ各社はそれぞれ中長期目標を設定し、具体的な行動計画を策定・推進、定期的なレビュー、継続的な改善に取り組みます。

⑤ 環境教育およびステークホルダーとのコミュニケーション

従業員一人ひとりの環境への意識向上に向け、環境に関する啓発活動を積極的に推進します。また、ステークホルダーの皆様との積極的な対話を通じた相互の環境への意識向上に取り組みます。

2. 環境保全に関する組織の現況

1) 環境マネジメント体制の構築に向けて(JFRグループ)





① RE100へ加盟

JFRグループは、2020年10月、「RE100 (Renewable Energy 100%)」に加盟しました。RE100は、事業活動で使用する電力を、2050年までに100%再生可能エネルギーを使用することを目標とする国際的イニシアチブです。今後も、SBTイニシアチブで認定された目標を達成するため、再生可能エネルギーの使用拡大等全社で積極的に取り組んでいきます

② SBTイニシアチブの認定取得

③ TCFD提言への賛同

④ 環境マネジメントのガバナンス

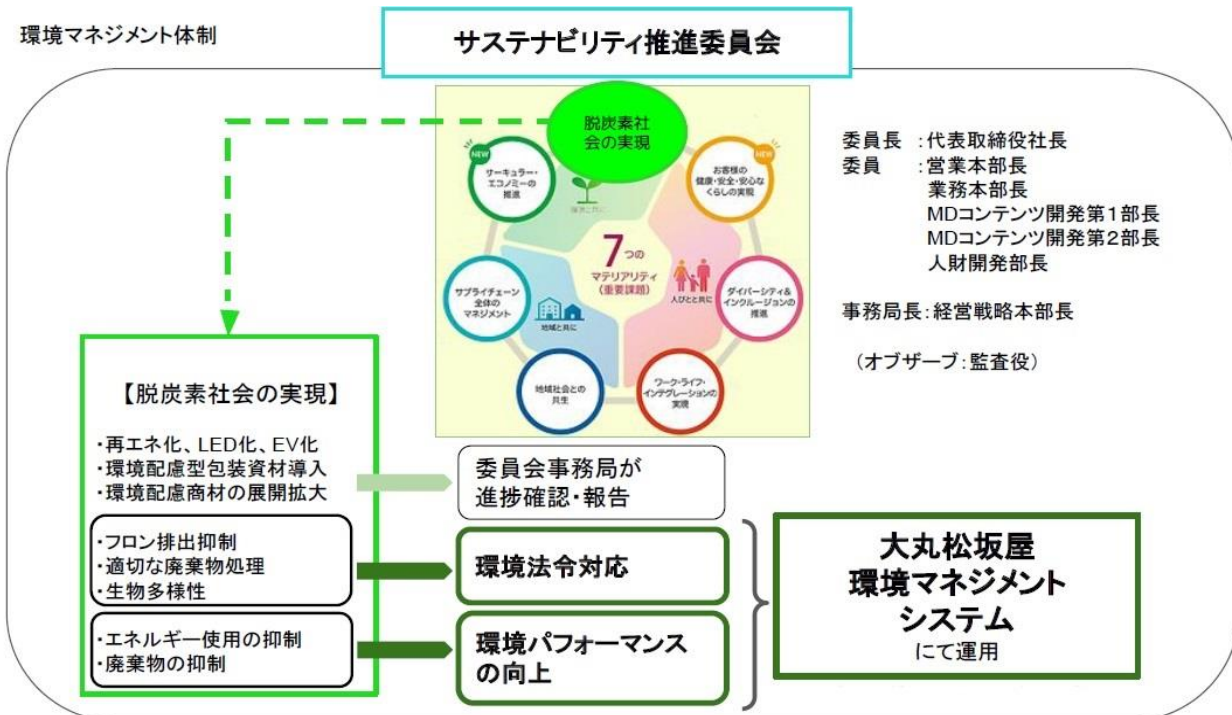
⑤ 環境データ算定・集計ルールの策定

⑥ 第三者保証の取得

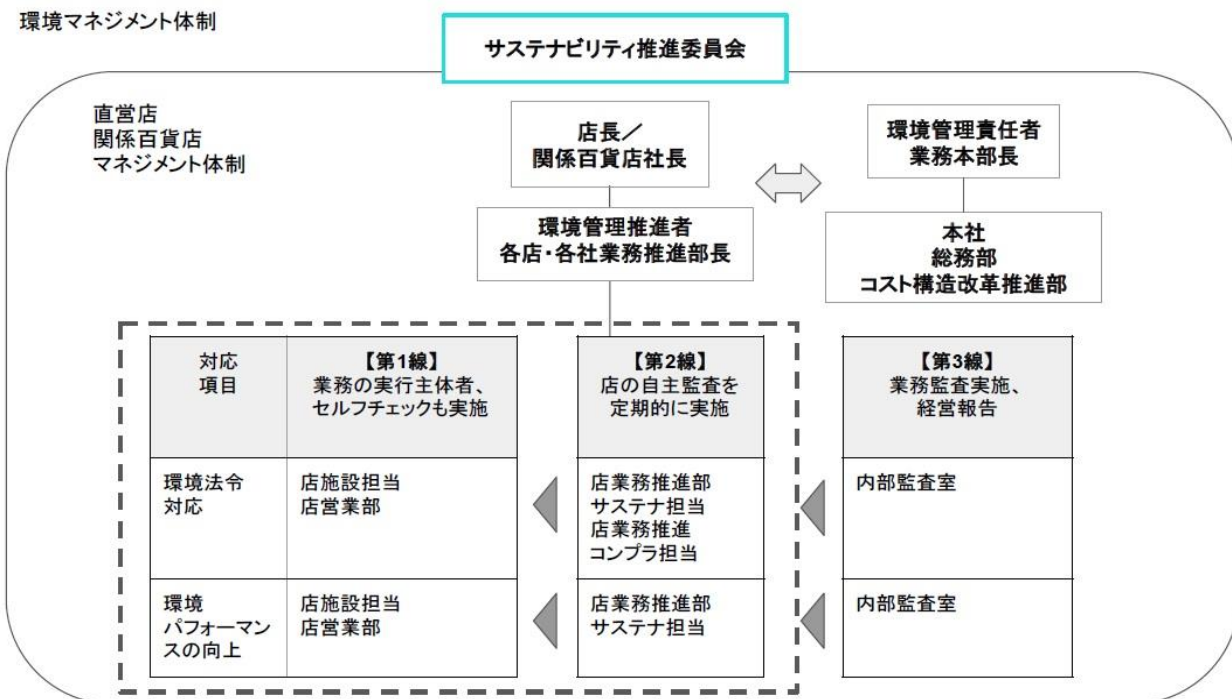
※各項目の詳細な内容はHPをご覧ください

2) 当社の環境・社会活動マネジメントシステム推進体制

環境マネジメント体制



環境マネジメント体制



3. 脱炭素社会の実現に向けた重点取組目標・計画

1) 取組目標

- ① 事業活動を通じた「環境にやさしいライフスタイルの提案」および「お客様の参画に基づく社会貢献活動の推進」
- ② 温室効果ガス排出量の削減（脱炭素社会の実現）
- ③ 循環型社会の構築
- ④ 生物多様性の保全

※ 2022年度数値目標は、令和3年度環境保全報告書に記載しております。

2) 事業活動を通じた「環境にやさしいライフスタイルの提案」

No.	取組内容	実施状況
1	良品・高品質商品の提案	環境活動の重点項目として、持続可能な社会の構築に貢献するため、お客様の生活の中に「エコ」「エシカル」を取り入れるための提案を行っています。6月、10月の環境月間には、売場で環境配慮型商品のご提供や、環境負荷の低減につながるライフスタイル提案を企画・推進しています。
2	Cool Biz Styleの提案と実践	日本の暑い夏を、空調に頼りすぎず快適に過ごすビジネススタイルとしての「Cool Biz」は、全国で定着しています。毎年、スマートなビジネススタイルの提案を実施しています。襟元がスマートに見えるビジネスシャツやビジポロは既に定番化し、最近では、接触冷感やご家庭で洗える素材などの機能が付加価値として支持されています。
3	スマートラッピングの推進	無駄のない適切な包装を推進するために、スマートラッピングマニュアルに基づく研修を繰り返し実施しています。店頭では、お客様のご意向をお伺いし、手荷物のおまとめや商品承り時のお声かけなどにより、簡易包装へのご協力をお願いしています。また、デザイン性と付加価値にこだわった「エコバッグ」の開発・販売にも取り組む、百貨店らしいお買い物スタイルの提案に努めています。
4	FSC®認証紙製ショッピングバッグの使用	食品専用バッグを含めた紙製ショッピングバッグを適切に管理されたFSC®認証林およびその他管理された供給源から生成された紙に順次切り替え、森林保護につなげます。
5	プラスチック製レジ袋の使用抑制	2019年8月から食品用レジ袋にバイオマス30%配合の製品を導入してきましたが、2020年6月からは有料化し、さらなる使用の抑制に取り組んでいます。

3) 温室効果ガス排出量の削減(脱炭素社会の実現)

No.	取組内容	実施状況
1	EV車の導入	社用車への積極的な導入を行い、災害時の電源対応も可能にすると共に、充電スポットについても積極的に拡大していきます。
2	エコドライブの推進	社用車に「テレマティクス」（移動体通信システム）を導入しています。「テレマティクス」は、速度超過や、急加速・急減速、燃費など、担当員の運行状況をデータ化するシステムです。「テレマティクス」のデータをもとに、燃費の向上、及びCO2排出量の少ないエコドライブや安全運転の実施に役立てています。
3	LED化の推進	既存照明をLED照明へ変更することにより使用電力及びCO2の排出削減に努めています。また、設備の更新や改装時・新規出店時にはLED照明だけでなく省エネ効率の高い機器を順次導入しています。
4	再生可能エネルギーへの切り替え	東京地区、関西地区、中部地区の主要店舗において、再生可能エネルギー電力への切り替えを順次進めていきます。
5	地産地消の推進	地元農家や自治体と連携し、朝どれ野菜を届ける試みなど、CO2排出量を抑制しつつ地域の活性化に繋がる取り組みを実施しています。
6	「働き方改革」の取り組み	ワークスタイルの変革として書類を削減し、個人の座席を特定しない「フリーアドレス制」を導入しています。また「会議資料をアウトプットせず、画面で確認する」デジタル会議の推進により、ペーパーレス化を推進しています。 モバイルPC、スマートフォン、TV会議システム等を導入し在宅型テレワークの活用を推進しています。 新型コロナウイルスの感染防止対策として、政府・自治体から出勤者の削減やテレワークの実施が要請されましたが、事務部門の社員がスムーズにテレワークに切り替えることで、事業を継続することができました。あわせてTV会議システムを増設、グループチャットを活用することで、社員間の円滑なコミュニケーションをはかりました。テレワーク活用による通勤の抑制、TV会議システムとグループチャット活用による出張、業務移動の抑制は交通機関（自動車や鉄道）の利用減少やエネルギー消費の減少につながっています。

4) 循環型社会の構築

No.	取組内容	実施状況
1	エコプ(衣料品回収活動)	お客様のご不要となった衣料品を回収しています。回収した衣料品は環境のためにいろいろなカタチで役立たせていただきます。
2	廃棄物削減と再資源化	最終廃棄物を削減し、再資源化を推進するため、ゴミの分別を徹底しています。梱包容器の減量としてお取引先のご協力のもと、折りたたみコンテナや百貨店統一ハンガーなど再利用システムを推進して、廃棄物の総量抑制に努めています。
3	廃棄物削減と再資源化	最終廃棄物を削減し、再資源化を推進するため、ゴミの分別を徹底しています。梱包容器の減量としてお取引先のご協力のもと、折りたたみコンテナや百貨店統一ハンガーなど再利用システムを推進して、廃棄物の総量抑制に努めています。
4	食品廃棄物の削減	店内からの食品廃棄物の減量に努めています。大丸神戸店では「生ゴミ処理機」を設置しています。食品廃棄物は計量を行い、排出部署へ毎月フィードバックすることにより削減意識を高めています。分別や水切りの徹底に向けた従業員への啓発活動や販売予測の精度アップにも定期的に取り組んでいます。
5	従業員お取引先販売員様学習機会の創出	「未来をつくるパスポート」は、当社で働くすべての人に環境問題や社会課題を共有し、「身近なことから」、「できることから」行動を起こすことを目的として作成したものです。このパスポートを常時携帯して、内容を理解し、自分ができるアクションを考えて行動を促します。

5) 生物多様性の保全

生物多様性の保全と持続可能な利用を促進するため、国際条約および関連する法令を遵守し、生物多様性に配慮した調達に取り組みます。



以上